サン・ピエール大聖堂
宗教改革の殿堂

12 世紀に建てられたサン・ピエール大聖堂では、16 世紀初めにジュネーブが宗教改革を受け入れてからは伝統的なプロテスタントの礼拝が行なわれていた。ジュネーブ在住の改革者ジャン・カルヴァンは 1564 年 5 月 27 日に亡くなるまで、ここで伝道を続けた。毎週、日曜日の朝 10 時にフランス語で礼拝が行なわれます、どなたでも参加できます。

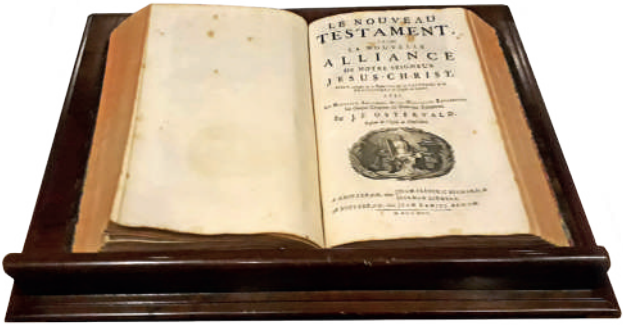
プロテスタントによる宗教改革の六つの柱

「ただ神にのみ栄光あれ。」新約聖書（テモテへの第一の手紙 1 章 17 節）プロテスタントの間で最もよく使われている一節である。教会でも、組織でも、建物でも、聖職者でも、聖人でもない。神のみが神聖な存在である。プロテスタントの信仰には聖人や聖母マリアに対する崇拝もない。神のみが崇められるのである。

「キリストのみ。」宗教改革派はイエスの教えに戻りたいと願った。「イエス・キリストのみが主である。」（フィリピの信徒への手紙 2 章 11 節）社会や教会でどんなに偉い人であっても、キリストの代わりにはなれない。すべての人が、社会的地位、人種、性別、年齢に関わらず、キリストと接することができる。「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」（出典　日本聖書協会『新共同訳　新約聖書』。以下同じ。）（ガラテヤの信徒への手紙 3 章 28 節）

「聖書のみ。」プロテスタントにとって、神の御心を伝える聖書のみが信仰心と教理の基盤である。16 世紀に改革者達は聖書を庶民の言語に訳し、印刷技術によって広く普及させ、多くの人々に行き渡らせた。聖書についての熟考や説教が、プロテスタントの礼拝の重要な部分をしめている。

「恵みのみ。」16 世紀にローマのサン・ピエトロ大聖堂が建てられた時、カトリック教会は免罪符を買えば神の恩恵を受けられると言って、人々に免罪符を売った。宗教改革者はこれに反対し、イエス・キリストも述べているように、神は無条件にすべての人々に恩恵を施すのであるから、免罪符など買う必要はないと説得した。



「信仰のみ。」お金や慈善活動を対価に救済を得ようとするのに対して、宗教改革者は信仰心があれば、神を信ずれば足りると断言した。「事年救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」（エフェソの信徒への手紙 2 章 8 節）

改革された教会は、神の言によって、常に改革され続けねばならなかった。プロテスタントにとって教会は人間によって作られ、常に変革していくものであり、イエス・キリストによる能力によって評価される。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイによる福音書 25 章 40 節）

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネによる福音書3章 16節）

プロテスタントの倫理

改革派のプロテスタントは倫理に特別の注意を払っていた。

倫理観は神の前で功績になるものではない。神はすべてを無条件に与えられ、倫理観はそれに対する感謝がもたらすものである。

人々のすべきことは、神が世の始まりから終わりまで人々に言い続けているただ一つの**律法に従うこと、**すなわち神を愛し、他人を愛することである。

この要求はすでに、すべての人々に認識されている。信者も、信者でない人も皆、自分がされたくないことは他人にしてはいけないと知っている。キリスト教信者は神の意志がこのように、正義と公平を貫くことにあると理解する。さらに神は求める。人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい、と。

カルヴァンは次の例をあげて説明した。神は、他人を殺さないのは勿論のこと、他の人が尊厳を持って生きられるように、できる限りの努力をするように命令した。このようにして正義から愛へと移ることができるのである。

そこから、宗教改革は倫理を責任の観点から考えるように促した。人はその人生において責任を果たさなければならず、中でも「多く与えられた者は、多く求められる」（ルカによる福音書12章48節）。

これらの原則は、政治、法律および経済に大きく影響した。国連や国際赤十字など、正義こそが愛の具体化とわかっている、多くの国際機関がジュネーブに本部をおいている理由である。

プロテスタントについてよく言われること

「プロテスタントは聖母マリアを崇拝しない。」新約聖書にもマリアの崇拝は書かれていない。だが、プロテスタントはマリアがキリストの母であることは認めていて、キリストに関わった重要な一名として深い敬意を払っている。

「プロテスタントは法王を認めない。」イエス・キリストのみが、神と人との仲立ちである。「兄弟の中の最も小さい者」以外は、いかなる人も神の代理となれない。

しかしながら、プロテスタントは民主的に教会を運営している人達の働きは認めている。聖職者は大学で教育を受け、礼拝や日々の活動において聖書を説明し、その教えを伝える役割を担っている。彼らは結婚することが許されている。ジュネーブでは 1943 年に初の女性牧師が誕生した。現在もジュネーブでは、男性とほぼ同数の女性が牧師や補祭を務めている。

「プロテスタントは質素である。」プロテスタントには断食や贖罪行為の習慣はない。他方で、プロテスタントは節度をもって消費し、日常生活を営むことが期待されている。

「プロテスタントは資本主義の台頭に寄与している。」確かに、行動する、信仰する、事業を起こす自由と責任がプロテスタントの神聖な原理ではあるが、他のキリスト教徒と同じように、社会的正義や困っている人たちの救済がプロテスタントの倫理観の礎でもある。

2020 年には世界中に約 20 億人のキリスト教徒が存在し、そのうち約 8 億人がいくつかの宗派に分かれているプロテスタントであった。ルーテル派、長老派、福音派、英国国教派、バプテストやメソジスト派などである。

サン・ピエール大聖堂は、世界のプロテスタンティズムのヨーロッパ有数の発祥の地なのである。

意図的に質素に建造された大聖堂

カトリックの贅を凝らした聖堂や教会に対抗して、プロテスタントは礼拝の場を質素なものにした。これは単に節約のためではなく、「あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。」（日本聖書協会『新共同訳 旧約聖書』出エジプト記 20 章 4 節）と言う聖書によるところであった。

宗教改革の際、ジュネーブの人々は大聖堂の中の像を叩き壊したり、壁画を塗りつぶしたりした。ただし、1444 年にコンラート・ヴィッツ（Konrad Witz) が

描いた祭壇画は難を逃れ、現在はジュネーブ美術・歴史博物館で鑑賞できる。

大聖堂のクワイヤ（内陣）には聖職者だけでなく、神聖な場における節度を持っていれば、誰でも入ることができる。

礼拝の時には**説教壇**が衆目の中心となる。

懺悔聴聞席がプロテスタント教会にはない。なぜなら、信者は牧師を通さずに神に直接、祈りを捧げられるからである。また、祝福は人々に対して与えられ、水や物に与えられるものではないから、**聖水盤もない。**

コンラッド　ヴィッツ　による奇跡の漁

重要な年表

1517年10月31日 ルター (1483-1546) はその頃教会が行っていた、金銭を対価に救済を売る、免罪符の販売に異議を申し立て、「95か条の論題」を発表して教会に反論した。これが、宗教改革の始まりであった。「箱の中へ投げ入れられた金がチャリンと鳴るや否や、魂が煉獄から飛び上がると言う人たちは、人間を宣べ伝えているのである。金が箱の中でチャリンと鳴ると、確かに利得と貪欲とは増すことになる。」(小学館日本大百科全書 (ニッポニカ) より、ルター著作集委員会編『ルター著作集　第一集第一巻』(聖文舎刊) 緒方純雄訳)。

１５２１年４月１８日 ルターは法王に召喚され、ヴォルムス帝国議会にてこの論題を取り下げるように要請されたが、彼は断固としてこれを断った。彼は言った。「聖書か自明な理由により確信できない限り、法王の要請には応じられない。法王や公会議の言っていることはしばしば間違っていて、矛盾していた。私はいつも引用している聖書に従い、神の言葉に従っているので、自分の良心に反して論題を取り下げることはできないし、するつもりもない。」

１５３２から１５３６年 ギヨーム・ファレル (Guillaume Farel 1489-1565) がジュネーブで宗教改革について説いた。市議会はカトリックのミサを中止させた。ファレルはフランス人のジャン・カルヴァン (Jean Calvin 1509-1564) に、ジュネ - ブで宗教改革を実施するように要請した。

１５３６年５月２１日 ジュネーブの市民が宗教改革を受け入れた。そして、逃亡した司教やサヴォア公から解放されたジュネーブは共和国となった。

１５３６から１５５９年 カルヴァンは教会に関する法令と市民に対する法令をしたため、それが共和国

カレッジ　カルヴァン

ジャン　カルヴァン像
(宗教改革記念碑)

の骨子となり、ジュネーブは「プロテスタントのローマ」となったのである。

１５５９年 カルヴァンがジュネーブにアカデミー（現在のジュネーブ大学）を設立。神学と人文科学を教える神学校として設立されたが、今では世界の上位 30 校に入る大学になっている。

１５７２年８月２４日 パリで勃発したサン・バルテレミーの虐殺により何千人ものプロテスタントがフランスから逃亡した。すでに国際的な交易都市であったジュネーブは避難民、亡命の地となった。

１５９８年４月３０日 フランス国王アンリー４世はプロテスタントからカトリックに改宗していたが、プロテスタントの信者達に市民権とプロテスタント教を信仰する権利を与えるナントの勅令に署名した。フランスの宗教戦争を終わらせる試みであった。しかし、1685 年にルイ 14 世によりナントの勅令は取り消された。1787 年に寛容令が出され、1789 年に人間と市民の権利の宣言が布告されて、ようやくユダヤ人とプロテスタントに信仰の自由が認められた。

１９０７年６月３０日 ジュネーブの人々は教会と国家を分離するための選挙を行なった。それ以来、国家はこの宗教的に中立、多元的な都市における信仰の自由を保証している。

現在、サン・ピエール大聖堂はジュネーブのプロテスタント教会に属している。建物は Fondation des Clés de Saint-Pierre(財団)によって管理されている。サン・ピエールのプロテスタント教区は信仰と地域コミュニティーの活動を支えている。

大聖堂では定期的に教派を超えたキリスト教の儀式や多宗教の催し、コンサートなどが行なわれる。また 5 年ごとに、ジュネーブ州と連邦の議員が就任宣誓のために大聖堂を訪れる。

祈り

「神よ、我々を照らす太陽の光を地上にもたらす如く、貴方の輝ける御霊で私の理解や精神を高め、貴方の教えられる道に導いて下さい。私の過去の過ちを忘れ、貴方の無限の慈悲で、貴方を信じて祈る人々に約束されたように、全てをお許し下さい。毎日、私に貴方の恩寵を与え続けて、貴方の御子、我々の救世主であり、昼となく夜となく、永遠に輝く、我々の真の太陽、イエス・キリストを確信するまで、導いて下さい。また、何ごとにおいても、貴方が定められた目標に向かって私がさらに進むように、導いて下さい。」

ジャン・カルヴァン (Jean Calvin)

Paroisse protestante de Saint-Pierre
Place Bourg-de-Four 24 – 1204 Genève
+41 22 319 71 90

www.saintpierre-geneve.ch
paroisse@saintpierre-geneve.ch
Page facebook : Paroisse de Saint-Pierre

CCP 12-1404-2
IBAN CH18 0900 0000 1200 1404 2
BIC POFICHBEXXX

ÉGLISE
PROTESTANTE
DE GENÈVE

CATHÉDRALE SAINT-PIERRE
Place du Bourg-de-Four 24 I CH-1204 Genève
paroisse@saintpierre-geneve.ch

工業デザイン+印刷　アトリエ　アート　グラフィック - www.epi.ge.ch